

も、健康のため何らかの方法を取り入れ努力されて
いることと思う。同輩の先生が塩分を控えるため刺
し身をそのまま食べて醤油は用いないと言われた時
その涙ぐましい努力に大変驚いたことがある。(今
は用いているとのこと)。私自身そこまでは無理で
あるとしても、退職後一二年間はあの山この川と
わが町にある山河や名所旧跡等を訪ね歩き足腰を鍛
えたものである。しかし、いくら年を取ったからと
いつでも一人で歩くのは寂しいものである。

そこで、ここ二年ばかりは仔犬から飼いなした
雑種の柴犬?に引つ張られて近くの山野を駆け回っ
ている次第である。

しかし、何といっても医者から病名を告知される
のが一番こたえ、気にもなる。高血圧との宣告を受
け、一年ばかりは薄味で努めて塩分を避けてきたが、
生来の意志薄弱のため、誘われて飲み、誘って飲み、
薬効も空しく、腹をこわし、粥を食うこともしばし
ばで、書斎のどこぞやに貼っている「継続は力なり」
の文言も空文と化している始末。

先日愚妻が私の生命保険証を見てぶつぶつ呟いて
いる。耳をすまして聞いていたら、「この保険六十
五歳までに死んだら二千万円、その後は百万円しか
こんとね」と私をちらつと見て言ったような気がし
た。「なに!おれはあと半年で六十五歳だぞ、それ
までに死ねというのか」と口から出かかったが、毎
日の食事は塩抜き薄味で料理しているようだし、家
の中に「トリカブト」や「硝酸ストロキニーネ」は無し、

ここは我慢のしどころと思って、早々に風呂に飛び
込み耳を洗ったら心がすかつとなった。

皆さん、先ほどの嬉野における新年会で半盲目で
参加し努力賞としてティッシュペーパー一年分をも
らった男、その男が私です。

その折に挨拶された広滝会長のことばに「収めた
年金を取り戻すのは七十歳。それ以上生きなければ
云々……」とあり、その文言が耳に残っている。七
十歳は鼻たれ小僧、人並みは九十歳。人生を全うし
たと言える年は百歳でありたいもの。この一文を記
しているとき、阪神大震災の死
者が五〇八〇人であることをテ
レビは報じていた。(合掌)。

日本中で百歳を今年中に迎え
る数とほぼ同じである。一億何
千万かの賞金を当てにして宝く
じを買うより、健康に留意して
百歳まで生きる確率が高くなっ
た。数十年前、この楠和会員の

中から百歳を超す人が出て欲しいものである。百歳
百歳と思っていたら昨晚、私自身百歳の表彰を受け
る夢を見た。

県知事より賞状を受け取り、副賞として「宮沢り
え」みたいな美女がそばにいたような気がする。私
はまだ若い! (平成七年)

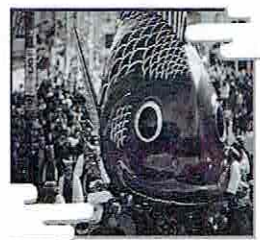


困難に負けない意志を養うべき

唐津市 堤 勝磨

昔の人は「艱難(かんなん)なんじを玉にする」とい
って失敗することを励みにしていたが、現代の人
たちは失敗することを怖がっ
ているように思える。

私たちの時代は失敗は成功
のもと、若い時の苦労は買っ
てもせよと教えられ育った。
若者は失敗を恐れることなく、
困難と正面から向かい合っ



勇氣を養っていくことを覚えるべきだと思う。とに
かく逞しく育てたいものである。世の中は今、大変
だ。様々な様相の中で様々な事件が起きている。生
存競争的風潮の中で人間性はますます希薄になり、
「勝ち組、負け組」という言葉さえある。

ここで言いたいことは、将来、逞しく困難に立ち
向かっていく強い意志を養ってほしい、厳しさを学
ぶことも必要だ。根本的に大切なことは、子供と向
き合いそして同じ目線になることだ。人間的な温か
みがあれば子供は信頼してくれる。子供が悩んでい
るとき、そばにいて「大丈夫だよ。」「勇氣を出して」
と言ってやりたい。

(平成二十年)

小さな幸せに大きな感謝

武雄市 千葉 光子

私は昭和四十一年に新採として武雄市立川登中学校に赴任し、先輩の先生方に厳しくそして優しく導かれました。以来市内各中学校を巡り、数多くの生徒たちに囲まれての教師生活。

終盤、小学校に移った頃から、母に先立たれた父が、一人での昼間の生活が無理になったので、定年を待たずに退職しました。

そこで私を待っていたのが地区の婦人会支部長の席。地区代表として武雄町の行事に参加していたら、会長になってしまいました。

学校以外を何一つ知らない私は、未知の世界への興味もあって任期の四年間を夢中で過ごしたものです。

子ども達も結婚し、娘一家と同居ができ、孫の顔を見ながらの平和な日々がやってきました。

そのうちに、地域の人からコーラス部を開くよう頼まれ、歌が好きで集まった友だちと一緒に楽しく歌う時間ができました。

四十代から七十代の男女二十名あまりで和気あいあいの活動です。メンバーの中のハーモニカ奏者が伴奏を引き受け、どんどんジャンルを広げています。

地区の集会で発表しているうち



にだんだん盛り上がり、町の公民館祭りに進出、平成二十五年で六回目の出演となりました。

曲目は「スキー」と「君といつまでも」「ちなみに昨年は「花は咲く」

を発表し、その後も東日本の一日も早い復興を願ってずっと歌い続けています。

また、地域生活の他の面でも役に立てればと仕事を引き受け、微力ながら皆さんと一緒に活動しています。

そして我が家のこと、現在わたしたち夫婦と、娘夫婦、孫三人(小六・小三・小二)の七人の暮らし、間もなく四人目の新しい命が誕生予定で、自分の力では叶わなかった八人の大家族になりました。

やや体調不良が気になる私も、今後保育園通いが待ち受けているとなれば元気になるしかないとい気を引き締めているところです。

今、高齢化が大きな社会問題となり、高齢者の独り暮らしの方、夫婦だけの方など厳しさを感じる状況の中で、賑やか過ぎる我が家、そして住民を優しく包んでくれる地域の温かい雰囲気から感謝しています。

これからの一日一日を、自分のためと人のために大切に過ごしていきたいと思っています。

最後に楠和会の皆さん方のご健康とご多幸を祈念しながらペンを置きます。(平成二十六年)



島根県

会報第二十四号より

有難い事

津和野町 佐山 一

昭和四年生まれの私は、今年八十八歳(米寿)になります。それを記念して、教え子が、湯田温泉で、「米寿記念の集い」を開いてくれます。卒業しての最初の担任(二年生)達です。若いだけ取り得の若輩・経験不足の私を、今日まで、付きあってくれた事に、感謝の気持ちで一杯です。同窓会も十回参加しました。

いまだに純真な気持ちでいる教え子に感激です。七つ違いですから、八十歳なのに、いまもって、恩師と想ってくれている事に、良き時代に生きて出会った事に思いを馳せています。弓道の射法八節に、「会」と言う流れがあります。「生者必滅会者定離」

仏教語で、会うものは必ず離れるという人生の宿命の語をかりて、心身弓が一体化したところを「会」とし、

弦が右手を離れて矢を送り出す分離状態を「離」すなわち「はなれ」と名付けたものである。弓道生活をしていて分かった事は、人との出会いを大切にすることです。

